

第2回モビリティDXプラットフォーム交流会員イベント

エネルギー×モビリティのセクターカップリングの実現
に向けた取り組みについて

Corporate Profile

As of Jan 2025



会社概要

名 称	AZAPA株式会社
所 在 地	〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目4番15号 ORE錦二丁目ビル 2F、3F（総合受付）
電話/FAX	052-221-7350 / 052-221-7351
代 表 者	代表取締役社長 & CEO 近藤 康弘
設 立	2008年7月
資 本 金	1億円
従業員数	単体：41名 国内グループ連結：147名（2022年10月31日現在）
事業内容	モデルベース開発による機能/性能設計、制御最適化、計測適合等の コンサルティングサービス及びこれに付随するソリューション開発
役 員	近藤 康弘 代表取締役社長&CEO 佐藤 勝之 取締役&COO 宮田 豊 取締役&CFO
関連会社	AZAPAエンジニアリング株式会社（愛知県名古屋市/株式保有率100%） AZAPA R&D Americas, Inc.（米国/株式保有率100%） 阿泽巴新能源汽车科技有限公司（中国/筆頭株主/株式保有率69%） Olive株式会社（愛知県名古屋市/株式保有率非公開）



社名の由来



社名の『AZAPA』はオリーブの一品種です。

花言葉は『平和』と『知恵』で、オリーブには異なる品種の花粉でないと実が成らないという特徴があります。

オリーブの受粉のように、異なるアイデアや技術を掛け合わせ、全く新しい価値を創出したい。

花言葉のように知恵を集結させ、私たちの製品やサービスで人々に豊かさをもたらしたい。

そんな思いが込められています。

企業ロゴはオリーブの葉をモチーフにデザインされています。

沿革

2008年	7月	AZAPA株式会社設立
2009年	4月	ADEA株式会社設立（現 AZAPA エンジニアリング株式会社）
2011年	10月	株式会社ジャフコを引受先とする第三者割当増資により資本金を増額
2012年	4月	AZAPA R&D Americas, Inc.を設立（在米国カリフォルニア）
2016年	1月	本社オフィスを拡大移転
2017年	8月	三井物産株式会社を引受先とする第三者割当増資により資本金を増額
2018年	4月	パナソニック株式会社（現 パナソニックホールディングス株式会社）と業務資本提携
2018年	5月	阿泽巴新能源汽车科技有限公司設立（在中国常州）
2021年	11月	J-startup Central（第2期）選定
2022年	8月	Olive株式会社 新設分割



**J-Startup
CENTRAL**



Philosophy

高度な技術と豊かな発想力で、
平和と豊かさに貢献する

貧困を救済し、広く経済を循環させ格差の
ない社会創出に貢献します。

Vision

限界を超えるイノベーションで、
すべての人が未来を
選べる世界を実現する

情熱こそが最大のイノベーションであり、
広い視野で、多くの知識を共有し、課題の
解決に取り組みます。

Mission

限界に挑むパートナーと共に
ひらめきと感動のある
ソリューションを創出する

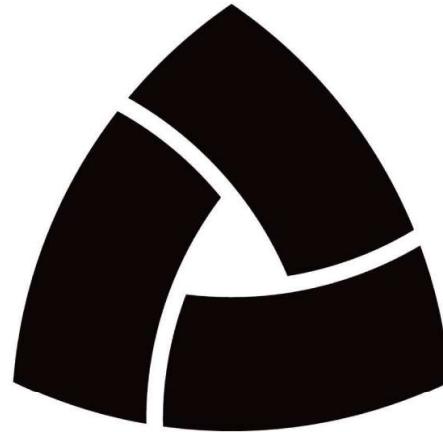
強みと強みによる共創を実現し、新たな価値を
社会実装して、社会をリードします。

私たちが目指す世界

自動車業界で培ってきた知見を活かし、さまざまなモビリティの
DX、**GX**に貢献し、社会システムの変革に挑戦する会社です。

Energy

エネルギーフリーな世界の実現



Connected

世界を思いあう利他的な世界の実現

Mobility

移動の連続性を失わない世界の実現

AZAPA Co.,Ltd.

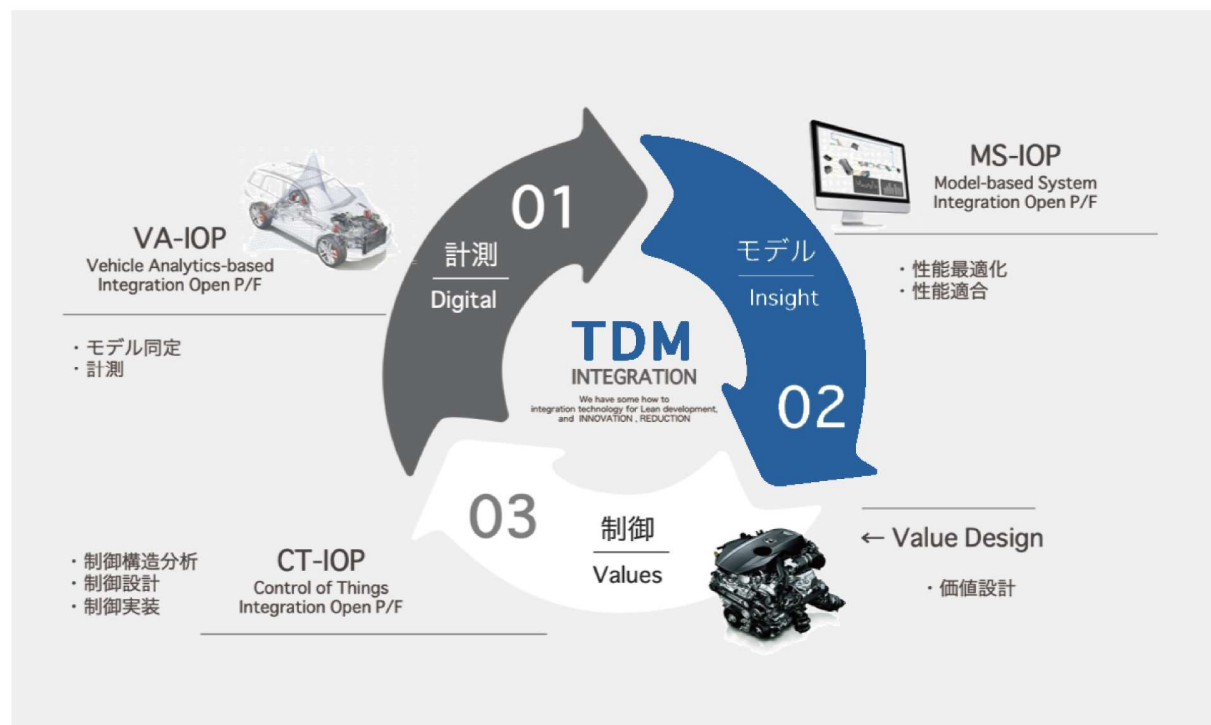
Innovating beyond by power of magic

システムデザインは、インテグレーションによって、新たな可能性へと創造を加速させる

移りゆく時代のニーズに対応するため、現存するシステムの多くは“つぎはぎ構造”により拡張され、複雑化し続けており、時に全体最適から乖離し、本来担うべき役割を果たす事が困難な状況にあります。

それ故に、多くの知識や経験を共有し、インテグレーション（システムの分解と再構築）する力が、改めて今、必要とされています。

AZAPAは「Magic」のように、システムとシステムの相互作用を理解し、つなぎ合わせ、全体最適視点で本質的なミッションを完遂するための新たなシステムを創造することができるのです。



モデルベース開発（1Dシミュレーション）をベースに、 設計・開発・検証の全工程を一気通貫して提供できる技術力

通常の開発では、「開発フェーズ」のみを担う『Vモデル』が広く採用されています。この手法は効率的ではあっても、価値設計が重視されず、常識を打ち破るような製品の誕生が困難という欠点がありました。

これを改善するには、開発の前段階で大胆な価値設計の仮説と理想の状態を定義し、後の検証まで含めてひとまとまりの工程とし、共同研究者や企業とビジョンを共有しながら進めていく流れが最適と判断。

前に「価値設計」、後に「価値検証」のフェーズを追加し、その開発手法を『トリプルV』と名付け、AZAPA独自の開発プロセスとして確立しました。

仮想環境で全体を可視化・共有しながら開発を行うことで、画期的な価値があるモビリティはもちろん、さまざまな分野でこれまでの常識を打ち破る製品の誕生や品質の向上、開発期間の短縮を実現します。

AZAPAはこの設計・開発・検証を一気通貫して提供できる技術力があります。

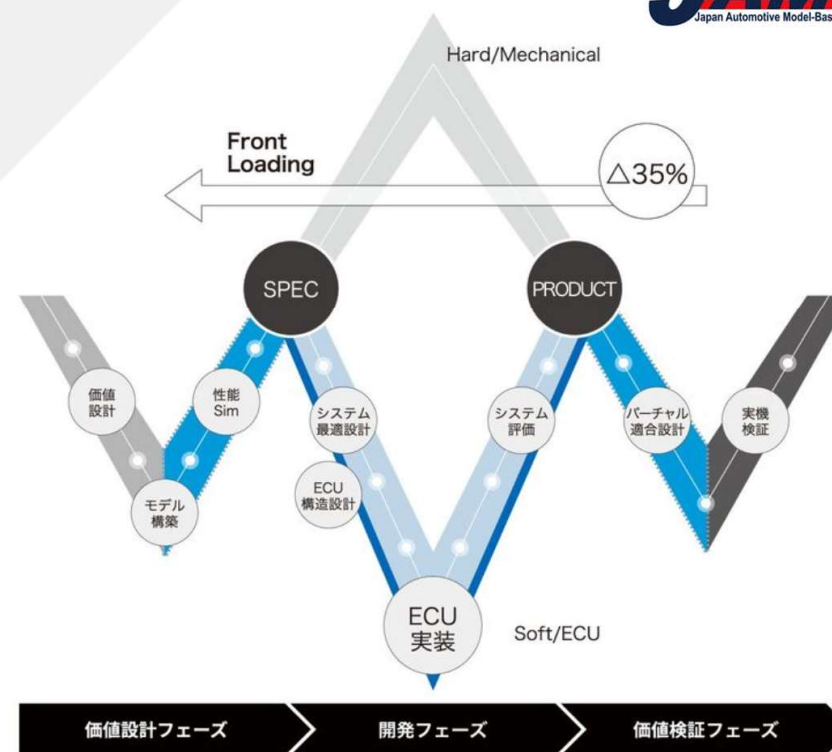
自動車やエネルギーなどの企業に勤務していても、通常は一部の工程だけを担うのが一般的です。すべての工程に携わることができるのは、AZAPAならではの貴重な経験です。

FOURIN掲載

自動車産業専門調査会社FOURINにおいて
世界のMBD/MBSE/パートナーとして
掲載されました。



JAMBE
Japan Automotive Model-Based Engineering center



BUSINESS | 2024 AZAPA CO., Ltd.

事業内容例 1

E-STATION

太陽光発電&蓄電による 独立型ソーラーカーポート

E-STATION

100%再生可能エネルギーによるEVの充電ステーション。

「エネルギー」と「モビリティ」の融合により、

カーボンニュートラルな社会づくりにつなげるだけでなく、複数の社会課題の解決を図ります。

事業内容例 1

E-STATION

背景

社会システム全体の課題解決につながるエネルギーシェアシステム

脱炭素社会を目指し、世界的に進むモビリティのEV化。

日本も2050年を目標に進めていますが、化石燃料による火力発電が70%以上を占めるという特殊な事情があります。

このため、EVへと切り替えが進んでも、温室効果化ガスの排出源が単にモビリティから発電所に移っただけになってしまうのです。

また、夏や冬になると政府から節電要請が出る現状では、モビリティの電動化による電力需要の増大に発電所が対応できない可能性があります。

つまり、既存の発電所に依存しない電力を確保する必要があります。

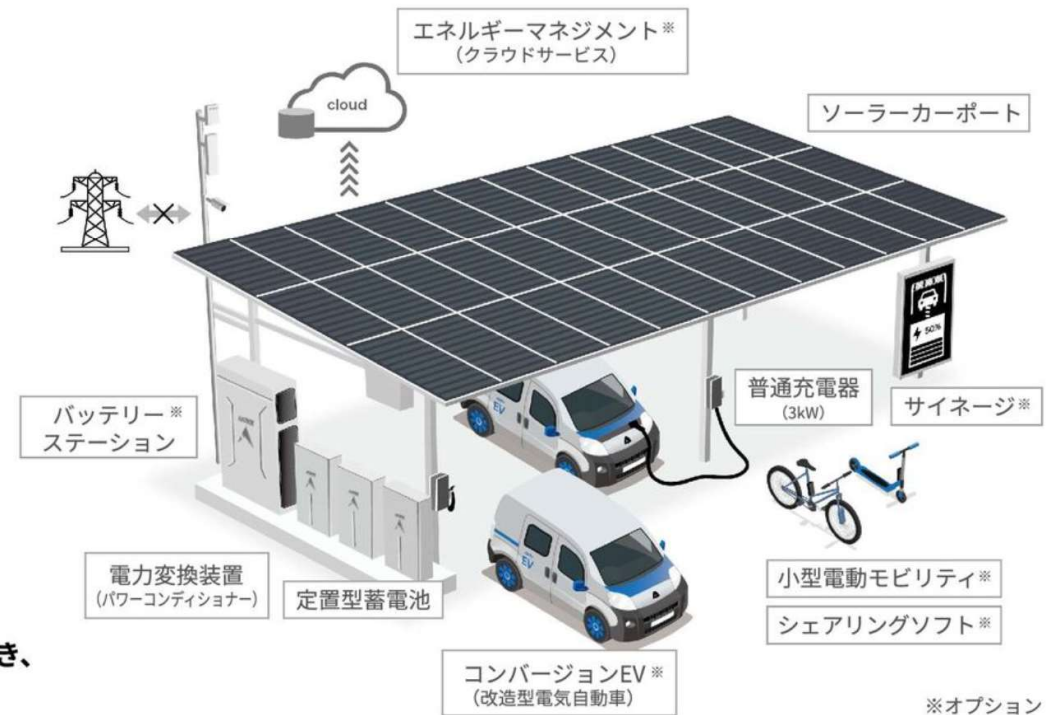
再生可能エネルギーのみで電力を供給する充電ステーションは、本当の意味での脱炭素社会の実現につながる画期的なシステムです。

事業内容例 1

E-STATION

特徴

- 環境省が提唱する「ゼロカーボン・ドライブ※」を実現。
※ 再生可能エネルギーを使って発電した電力とEVを組み合わせることで走行中のCO2排出量をゼロにすること。
- 既存の電力系統から切り離すことで、EVによる電力需要増に対応。発電所の負荷を軽減。
- 停電や災害などの有事の際は、非常用電源としてエネルギーを一般開放し、地域のレジリエンス機能に寄与。
- 中山間部や過疎地域などでも電力系統に頼ることなく設置導入ができ、充電の空白地域をスマートに解消。



事業内容例 2



EV CONVERSION

エンジン搭載車がEVへと生まれ変わる



EV CONVERSION

既存のエンジン車両をEVに改造し、普及を促進する事業。

特に幅広い層の需要が見込める軽自動車や軽商用車などの分野に低価格の車両を提供することで、

カーボンニュートラルを加速させます。

まずは、全国の物流を支える軽商用車のEV化に注力し、着実な成果につなげます。

そして、将来的には国内だけでなくASEAN地域にも展開します。

事業内容例 2



EV CONVERSION

背景

脱炭素社会を加速させる低価格EV

2020年度の日本のCO2排出量のうち、運輸部門からの排出は17.7%。うち自動車全体で運輸部門の90%近くを占めています。

脱炭素社会の実現に向け、自動車の電動化は急務です。

しかし、高止まりするバッテリー価格が障害となり、普及が進んでいないのが実情です。

運輸部門の40%近くを占める貨物自動車も同様に、EVへの切り替えコストは、輸送費の値上げという形で生活者が負担することにもなるでしょう。

エンジン搭載車からの改造によりEVへの切り替えコストを下げるとともに、EVを宅配業者の事業所での電源として使用するという新しい価値を有する「EVコンバージョン」は、新しいエネルギー循環の切り札となります。



事業内容例 2



EV CONVERSION

特徴

- エンジン搭載車よりも
100～200万円程高いEVを低価格で提供。
- EV用バッテリーを宅配業者の事業所内で
使えるようにすることで、新たな付加価値を創出。
- 停電や災害など有事の際は、
非常用電源としてEV用バッテリーを活用。



事業内容例 2



EV CONVERSION

特徴

- バッテリーを固定式から交換式へ。
交換式にすることでダウンタイムを軽減。
- 自動車に限らず、農機・建機への展開も。
- 交換式になることで社会システムと連携させ、
エネルギーの流動性を高める。

Japan Mobility Show2023



東京オートサロン2024、大阪オートメッセ2024の
オートボックス様のブースに展示されました！

